

<心づくりチーム>

【児童生徒の実態】

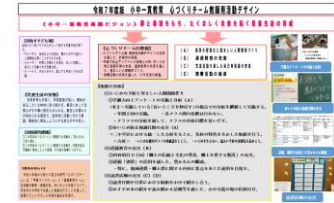
知的好奇心が高く、学習意欲が高い。興味があることに主体的に取り組むが、集団に対しては関心がやや薄い傾向もみられる。集団との関わりが求められる場面で、協同的に活動に向かう意識、積極的に解決しようとする能力がやや低い。

【部会のねらい】

新設から4年目となる「心づくりチーム」は、令和3年度「学級づくりチーム」と「道徳教育チーム」の活動を継承・発展させた部門である。4年目は、教師用活動デザインを通して見える化した取組を計画的に実践し、「夢と希望をもち、たくましく未来を拓く児童生徒の育成」を目指す。

視点	<A> 教育課程の工夫改善	 教育活動の連続性の確保	<C> 教職員間の連続・協働	<D> 家庭・地域との連携・協力
----	------------------	--------------------	-------------------	---------------------

取組	・心づくりチーム版「教師用活動デザイン」を活用し、見える化した4つの取組(①市いじめ防止強調月間の推進②学級力向上アンケートの実施と分析③道徳教育における、別葉の活用(中学校は作成)④読書活動の充実について、計画的に周知・実践する。
成果	①学区内で統一した、いじめ防止の方針をもとに活動を推進した(「いじめは絶対ダメ!の再確認をしよう」「いじめを生まない温かい学校の雰囲気を高めよう」)ことで、持続可能な指導につなげることができた。 ②各校において、学級力アンケートの実施とクラスでの分析を行った。「クラスの良い所を更に伸ばす」の視点での分析・目標設定を行い、温かいクラスの雰囲気を更に高めていくことができた。 ③R7は、中学校道徳の教科書改訂に伴う1年生の「別葉の作成」を行った。別葉上に、「ふるさと学習に関連する学習は『下野古麻呂』、小中一貫教育(人権、差別、いじめ等)に関する学習は『かんびくん』マークをつけた。道徳科を中心とした小中の繋がりを可視化できた。それを掲示板を利用して共有し、各校での実践に生かした。 ④令和6年度より開始した「読書ゆうびん」を今年度も継続実施したことにより、小中の読書活動の交流の場を設定し、より充実した読書活動を展開することができた。
課題	①市いじめ防止強調月間における各校の特色ある取組を、全職員で共有し、事後の指導に活用していくこと。 ②Q-Uや、学校生活アンケート等との兼ね合いに注意していくこと(今後も実施時期や、アンケートの目的を明確にして進めていく)。また、学級力向上アンケートの分析で決まったことについて、児童生徒自身が評価する方法をより明確にしていくこと。 ③R7中学校道徳の教科書改訂に伴う、中学2年生の「別葉の作成」。小学校と同様のマークを活用し、同じ様式での可視化を進めること。 ④今後も「読書ゆうびん」を継続するために実施時期と対象学年を読書活動計画の中に明記する。



↑ 教師用活動デザインで年間の取組見える化


下野市いじめ防止強調月間



6月・11月は「市いじめ防止強調月間」です

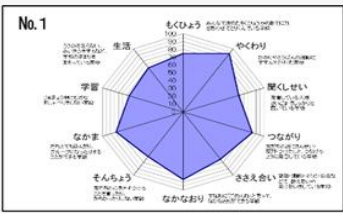
～南河内第二中学校区の取組～

①いじめは絶対ダメ!の再確認をしよう。
②いじめを生まない、温かい学校の雰囲気を高めよう。


生徒会・生徒指導部



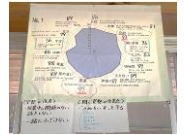







↑ 学級力向上アンケートの実施と分析



↑ 道徳教育の充実に向けた取組を共有







↑ 読書活動の推進 魅力あふれる取組の共有